

道神青

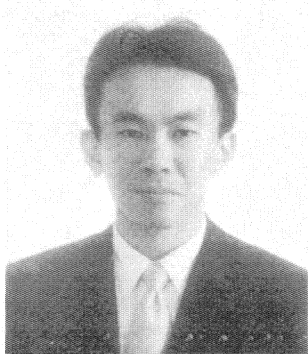
第20号

北海道
神道青年協議会
平成13年4月6日

藤山新体制始動

北海道神道青年協議会

新会長 藤山敬廣



ご挨拶

北海道神道青年協議会には日頃より格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本会は、その前身であります北海道青年神職会が発足致しましてより、平成十一年には創立五十周

年を迎え、前期二年間また新たな歩を進めて参りましたが、その歩は、時代時代に、直面する諸問題に真摯に取り組んで来られました先輩諸賢の御盡力の賜物と改めて敬意を表しますとともに、今や全国的にも大きな存在とならしめたその御実績には深く感謝申し上げます。次第でございます。

後に続く我々はその上に着実に歩を進めるとともに、斯界の尖兵として常に新たな挑戦をもして参らなければならぬものと存じます。

この度は図らずも向後二年間会長の席をお預かりすることと相成りましたが、その責務の重大さに

は身の引き締まる思いでございます。元より浅学非才の身ではありますが、専心努力致す所存でございますので、御指導・御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

扱、ご承知の通り道神青は道内十五の青年会からなる協議会体制をとっております。各青年会が意見を持ち寄り、協議をすることによって道神青が運営されているわけでございますが、ひいては会員一人一人の思いが各青年会を通して反映されることにより運営されているわけでもございます。

各青年会を代表して道神青の理事として出向されます役員には、各地区の意見をぶつけ合うとともに、執行部としては会員の為の雑用係（会長は雑用係長）として二年間勤めて頂くようお願いをさせて頂きますが、会員各位には自分の思いが道神青を運営し、その事業を展開していることを今一度御確認頂ければと存じます。

また広大な北海道ゆえ、各青年会のおかれている状況も。その会勢様々であるかと存じます。それぞれに出来ること、出来ないことがあり、地域性があります。それを負の方向に作用されることなく、協議会としていろんな色を持ち合

わせて会務の幅広い運営を図って参りたいと存じます。

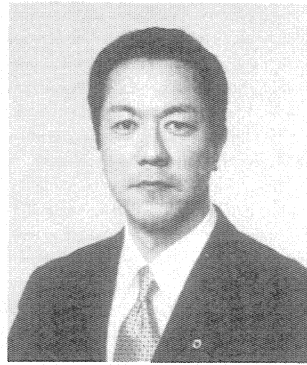
任期中であります平成十四年度、平成十五年の春には過去二回にわたって北海道で開催されました神青協中央研修会が開催される予定となっております。昭和五十三年の北方領土返還根室大会、そして二度の中央研修会と、全国規模の大会をいずれも成功裡に納めてきており、それだけに北海道開催に寄せられる全国の期待も大なるものがありますので、この開催に向けては万全の準備を致したく存じます。

同時に、道神青では平成七年より組織、事業の見直しを図り、その時々に合わせて部会制度を施いて事業を展開させて頂いており、その成果も上がってきておりますので、通常の会務におきましても中央研修会開催に向けての特別な体制を取ることもなく、より一層の充実を図って参りたく存じます。何卒新役員共々倍旧の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶申し上げます。

任期二年を振り返り

北海道神道青年協議会

会長 近 藤 摩 人



ご挨拶

植田前会長の後を受け、会長の職を承り早いもので二年の任期を終える事になりました。この間、北海道神社庁様を始め、多くの先輩諸兄の皆様に御支援御協力を賜り、職平成十一年度より、図らずも職務を全うさせて頂きました事、誠に感謝に絶えません。衷心より厚くお礼申し上げます。

会長就任に際し『青年は行動を以ってすべし、青年故に為すべき事・成し得ることを見極め、その為の先兵として奔走すべし。』と挨拶を致しました。

恍惚と不安の中、此れを実践するのは、困難極まりない事でありますが、孔子・中江藤樹先生の教え

であります『知行合一』（知識ばかり備えていても行に移さなければ、なんら事足りない）とあるように、役員会に於いて活発な審議を重ね事業等を通じて、多少なりとも実践させて頂きました。

また、前期（植田会長時）には当会創立五十周年を見事完遂し、今期会長として道神青をより魅力ある会として、今後どうあるべきかを考える上で、『組織としては協議会ではあるが北海道は一つである』と言う意識のもと、組織の充実を図ることを念頭に置いて参りました。且つその組織を支えるのは人（会員）であり、これから世代が尚若返る時期に差しかかる中、会員が積極的に参加し意見を交わして、相互研鑽を積み、青年神職としての向上をめざすべくその方法として事業を開催して参りました。

活動方針により、三部会制（総務広報・研修・教化研究）を執り、部会長はこれまで副会長が務めていましたが、今期は理事が部会長を務めて戴きました。当初教化研究部会で会員の意識調査の教化アンケートを実施。それに基づき研修部会では、これまでの研修会の方法を変え、会員相互の情報交換の場として意見交換会、また時局講演会（長谷砂原町長）広報誌の

発刊等。また道神青の初の試みであります、教化事業頒布品の『灯明マツチ』を製作致しました。

この教化事業頒布品につきましては、国旗・国歌の教化目的を本義と考え、さらには道神青として尚、活発な運動展開を考える上で自努力を行い、その支えになるものと考えております。この度の頒布品には道内各社のご理解と御協力を賜りました事お礼申し上げます。『小事は重く、大事は軽く』（一人一人の役割は小さくとも、それを一つ一つこなさなければ、組織として成り立たない）つまり、一人一人が為すべき事を行ってこそ組織がスムーズに展開することを、この二年間身を以って経験させて頂きました。偏に理事役員と、支えて頂いた会員のおかげと、重ねてお礼申し上げます。

さらに、神青協の理事として、北方領土早期復帰祈願祭には道神協として助成をし、此れを始めとする神青協創立五十周年記念事業には、多数の会員のご参加を戴き有難うございました。また平成十一年十一月十二日、天皇陛下御即位十年奉祝記念式典が皇居前広場に於いて盛大に開催され、私もその場でお祝い申し上げる事ができ、一生この上ない感銘を受け、喜び

平成十二年度会務報告

（平成十二年）

四月四日

道神青協

平成十二年度定例総会

（於 北海道神社庁）

出席者 百七十八名

委員数 五十四名

出席者 七十一名

議 件

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

一、創立五十周年記念事業報告

を感じた次第であります。

最後になりますが、当会が次期藤山会長のもと、新しい息吹により一層発展する事を確信しております。皆様の多大なる御理解・御協力をお願い申し上げ、お礼のご挨拶とさせていただきます。

灯明マッチ作成にあたり

北海道神道青年協議会

事務局長 山口 貴 生

はじめに、先般道神青協初の試みでございます事業品「灯明マッチ」作成にあたり、ご協力戴きました各社宮司様に御礼申し上げます。

道神青協では、近藤会長から事業品作成の提案がされて以来、役員会の度にこれを議題とし、内容についても祭器具・装束等の神職を対象にしたものの、或いは氏子への頒布品とするなどの意見が交されました。なかにはパソコンを駆使して試作品を作り役員会に望む者もありましたが、コストの他様々なりスクを考えるとなかなか具体化せず、今期は無理かと諦めかけておりました。

しかし、平成十四年度の神青協中央研修会を担当するに当たり、些かでも蓄えがほしい、また既に

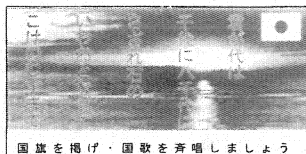
各種事業品を扱う他の都道府県神青会には無いものを作りたいという役員総意のもと検討が重ねられ、ようやく九月二十七日の役員会で灯明マッチに意見が纏まりました。これは、氏子教化を目的に、年末年始の頒布を考慮したブック型のマッチで、二つのパターンがあり、一つが表は日の出を背景に「君が代」、内はその歌詠、もう一つが表は青雲を背景に「教育勅語」、内にその現代語訳、そして両方共裏に注文個数によって社名・住所・電話番号を印刷するというもので、十一月末の各社納品を目標とし、次回の役員会には数社から取った見積りとタイムスケジュールを提出して最終決定を戴く予定でした。

ところが業者者に詳細につき問い合わせると、十月末に発注しなければ十一月末納品は難しいとの回答に愕然。早速、会長以下役員全員に事情を報告し、なんとかこの企画を次の役員会の前に進めさせて戴けないものかとお願ひ致しました。皆様のご理解のもと快諾戴き、パンフレット作成に取り掛かりました。教育勅語バージョンは活字が小さい事などから見送り、今回は君が代のみとし、三〇〇個以上は社名等をお入れするという内容でご案内致しました。申し込

みは順調で、道研修会時点で六五社・一団体、二二、五〇〇個にものぼりましたが、作成に殊の外時間を要した為十二月中旬の納品となつてしまい、各社には大変ご迷惑をお掛けいたしました。茲に改めてお詫び申し上げます。

《灯明マッチ・ブック型》のご案内

◎君が代(単価 70 円・100 個単位)



神棚に灯明をあげましょう
○△神社 札幌市○△区○△町1条3丁目
電話(011)○○○-△△△△

支払い方法には「代金引換え」を利用させて頂き、お陰様で発送の五日後には代金完納、業者への支払いも年内に済ませることができ、年末年始を控え事務局にとっては大助かりでした。また、出来栄についてはお褒めの言葉を頂戴した一方、マッチの着きが良くないとの指摘もあり、新バージョンを含めて今後の課題は山積しております。

今後道神青協は、各社から寄せられた意見・アイデアを反映させ、より良い事業品づくりに努めていかなければならないと考えます。

五月十八日 道神青協時局講演会：共催 神政連北海道本部(於 北海道神社庁) 九十一名参加

五月十九日 道神青協第六回三役会(於 北海道神宮) 近藤会長・牧口事務局長・山口事務局長・西川副会長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月二十日 道神青協第八回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月二十一日 道神青協第九回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月二十二日 道神青協第十回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月二十三日 道神青協第十一回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月二十四日 道神青協第十二回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月二十五日 道神青協第十三回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月二十六日 道神青協第十四回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月二十七日 道神青協第十五回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月二十八日 道神青協第十六回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月二十九日 道神青協第十七回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月三十日 道神青協第十八回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

五月三十一日 道神青協第十九回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月一日 道神青協第二十回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月二日 道神青協第二十一回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月三日 道神青協第二十二回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月四日 道神青協第二十三回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月五日 道神青協第二十四回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月六日 道神青協第二十五回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月七日 道神青協第二十六回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月八日 道神青協第二十七回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月九日 道神青協第二十八回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月十日 道神青協第二十九回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月十一日 道神青協第三十回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月十二日 道神青協第三十一回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月十三日 道神青協第三十二回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

六月十四日 道神青協第三十三回役員会(於 北海道神宮) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・藤山副会長・原町長・長谷保和氏 講師

平成十二年度

神青協中央研修会開催

中央研修会に参加して

羽幌神社 欄宜 佐藤 和史

平成十三年二月二十二日から二十三日の両日、北陸は富山市で、『日本の進む道』と題し、現代コリア編集長 西岡 力 先生、中国研究家 黄 文雄 先生、元内閣安全保障室長 佐々 淳行 先生をお招きしての研修でした。北



海道の参加者は、地元富山に次ぐ二十四名、この人数は全国二番目で研修会場でもかなりの存在感を示していたと言えます。

第一講は「激動する朝鮮半島と日本の対応」と題し、西岡 力 先生の講演でした。

北陸は日本海に面し、朝鮮半島との距離が近いこともあり、特に拉致問題には、人ごとではないと言う実感があるようでした。金日正と金大中の会談以来、この友好ムードを壊してはならないとの、韓国、中国、アメリカなどからの圧力に屈し、食料支援をするなど、まるで拉致問題など存在しないかのような政府の対応。この弱腰はいったい何処から来るのか。西岡先生から暗示的話がありました。金丸 信 元副総裁が脱税で捜査を受けたとき、金庫の中に金の延べ棒が発見された。しかし、延べ棒には何の刻印もなかったのです。何の刻印もない金の延べ棒を製造している国。これ以上は文章に出来ませんが、この国の政治家官僚

が、恐ろしいほど腐りきっている、現状が報告されました。

第二講は「台湾、中国の政治的情勢について」と題し、黄 文雄 先生の講演でした。

先生は台湾独立派の旗手で、親日家の代表でもあります。その先生から台湾と日本の関係が、将来的に悪化するとの見通しが語られました。その最大の理由は、李登輝に代表される、日本教育を受けた世代が退き、蒋介石政権下で反日教育を受けた世代が社会のトップにたち始めている事です。今後、日本が中国に対し弱腰な姿勢が続けば、アジア諸国の信頼を失い、台湾の反日傾向は更に加速されるとの、見通しが語られました。ここでも日本政府の弱腰な姿勢が問題となり、外交政策の問題を越え日本人の精神から気概というもの、が消えうせている事が大問題であると。台湾人である先生から指摘を受けたことは、日本人として恥づかしい思いでした。

第三講は「日本の危機管理体制について」と題し、佐々 淳行 先生の講演でした。

先生は農耕民族と、騎馬民族の危機管理意識の違いを論じられ、

七月三十日 日本会議キャラバン隊長・藤山副会長	八月二十三日 神青協第十六回役員会(於 院友会館) 近藤会長・藤山副会長	八月二十四日 平成十一年度神青協夏季セミナー(於 國學院大學)	八月二十四日 神青協次世代への継承事業検討委員会(於 院友会館) 近藤会長・藤山副会長	九月六日 神青協第十三回事業委員会(於 神社本庁) 永井理事	九月二十日 神青協次世代への継承事業検討委員会(於 神社本庁) 近藤会長・藤山副会長	九月二十一日 神青協第十七回役員会(於 神社本庁) 近藤会長・藤山副会長	九月二十七日 道神青協第十回役員会(於 北海道神社庁) 近藤会長・西川副会長・山口事務局長・牧口事務局長・松谷理事・菅原理事・佐藤理事・加持理事・永井理事・岩崎理事・星野理事	十月五日 神青協海外視察研修会(於 韓国) 近藤会長	十月十六日 神青協第十四回事業委員会(於 神社本庁) 永井理事	十月十九日 道神青協役員正式選出(於 滝川神社) 近藤会長・西川副会長・藤山副会長・山口事務局長・牧口事務局長・松谷理事・菅原理事・加持理事・岩崎理事・宮腰理事・板垣理事	十月十九日 平成十二年度道神青協研修会(於 ホテル三浦華園) 六十六名参加 担当 空知文部青年神職会主事 神道 講師 町沢静夫氏 小田 晋氏	十月二十四日 道神青協第四回役員会(於 ホテル三浦華園) 近藤会長・西川副会長・藤山副会長・山口事務局長・松谷理事・菅原理事・鎌田理事・佐藤理事・加持理事・若松理事・西川理事・永井理事・酒井理事・星野理事	十一月七日 神青協第十八回役員会(於 神社本庁) 近藤会長・藤山副会長	十一月八日 神青協臨時総会(於 神社本庁) 近藤会長・藤山副会長・上田副会長・山口事務局長	十一月十三日 道神青協スポーツ大
-------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	---	--------------------------------	--	--------------------------------------	---	----------------------------	---------------------------------	---	--	--	-------------------------------------	---	------------------

アメリカと日本を例にとり、日本が如何に危機管理が下手な民族かを力説しました。特に日本の和の精神は緊急事態に弱く、対応が常に遅れる要因である。従って日本人は危機管理が、下手と自覚することから、始めるべきとお話から始まりました。

アメリカには連邦緊急事態管理庁(FEMA)があり、ロサンゼルス大地震は大変な活躍をし、死者は三百人ほどでした。一方、阪神淡路大震災では村山総理のもとさんざんな状況であり、死者は六千人以上です。その後、日本も危機管理体制を調えたのですが、先般、省庁再編があり組織が変わりました。せっかく調えた危機管理体制はバラバラに成ってしまったそうです。

精神面では、日本人としての歴史を失ったことが、気概を失い道徳心を失った。最大の要因であるとの意見が示されました。まだまだ興味深いお話がありましたが、書き尽くせないのが残念です。

来年は四国にて中央研修会は開催されます。閉会式では四国の会員四十名が整列し、『ボンジュースのイッキ飲パフォーマンス』で、開催の意気込みを示しました。再

来年は北海道での開催が決定しています。来年の四国中央研修会には、四国に負けない人数で参加し、

北海道女子神職協議会報告

去る二月二十二日、二十三日の

両日、北海道神社庁研修所主催・北海道女子神職協議会共催による祭式及び教養研修会が開催され、この度は祭式、短歌、茶道と盛りだくさんの内容で行われました。

一講目は吉田源彦先生をお迎えし、祭式の実習を交えた講義を賜りました。はじめに先生から神職は心と姿形が一体になり、心がこもった祭式をしなければならぬ。それを判断するのは自分自身ではなく周囲の人々だと言うお話を頂、身が引き締まり、これまでの態度を深く反省させられました。しかし、時折冗談を交えた講義に、久しぶりの祭式で緊張していた受講生も徐々にほぐれていったようです。

実習では参進・神饌献撤・玉串奉奠など、それぞれ所役を与えられみんなの注目の中緊張に震えながらの祭式です。奉務神社では宮司の会員が手長になったり、権禰宜の会員が宮司になり祇候の座に

『毛蟹イッキ食パフォーマンス』をするべきと考えます。

着いたり普段では経験できない事ばかり。特に港会長が陪膳になり深揖する姿は吉田先生も感心するほど、心がこもっておりました。受講生の要望で急遽、衣紋の間もとって頂き、女子の常装・正装を一番若い鎌田会員をお方に、三澤会員が衣紋者になり着装の実技を致しました。紫の袴を付けてお方様はとても嬉しそう。



また三澤会員から着装の際のコツや、アクシデントの時の対処法などの解説もあり、大変わかりやす

二月二十二日	神青協第十五回事業委員会(於 神社本庁) 永井理事
二月二十四日	神青協第十九回役員会(於 神社本庁) 近藤会長・藤山副会長
二月二十五日	平成十一年度神青協顧問会(於 陣屋) 北方全国顧問・近藤会長・藤山副会長
二月二十六日	神青協第二十回役員会・次期役員予定者オリエンテーション(於 神社本庁) 近藤会長・藤山副会長・山口事務局長・永井理事
二月二十七日	日本会議北海道本部第四回役員会(於 北海道神宮社務所) 牧口事務局長
二月二十八日	委員会(於 神青協ホームベージュ) 藤山副会長
二月二十九日	北海道神青協第九回三役会(於 北海道神社本庁) 近藤会長・西川副会長・藤山副会長・上田副会長・山口事務局長・牧口事務局長
二月三十日	道神青協第十三回役員会(於 北海道神社本庁) 近藤会長・藤山副会長・上田副会長・山口事務局長・星野理事・菅原理事・鎌田理事・佐藤理事・岩崎理事・星野理事
二月三十一日	建国記念の日奉祝道民の集い(於 ロイトン礼帳) 近藤会長
二月三十二日	神青協表彰委員会・第二十一回役員会(於 富山国際会議場) 近藤会長・藤山副会長
二月三十三日	神青協第十八回事業委員会(於 富山国際会議場) 永井理事
二月三十四日	神青協総務局会議(於 富山国際会議場) 藤山副会長
二月三十五日	平成十二年

く実りのある研修となりました。

夕食後は当会の「俵 万智」三澤史佐子会員を講師に迎え短歌の講義を頂きました。この度は事前

に「食べ物」をテーマに一人一人

首歌をつくるという宿題が出されており、祭事や家事の合間に指折りながら詠まれた力作が揃ったよう

です。それらを三澤先生が添削下さって研修会当日を迎えました。

最初に「今までの短歌のイメージを全部捨てて下さい」という言葉があり、初歩的な短歌の基礎を

教えていただいた後、いよいよ宿題の発表です。同じテーマでも全く

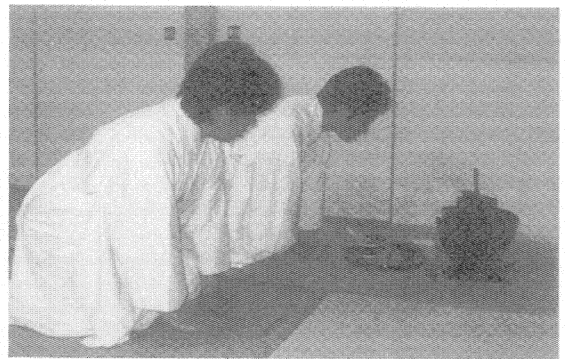
感性の違う歌が次々と詠まれましたが、三澤先生がほんの少し手を

加えただけで流れよく、まとまりのあるものになるのです。中でも

受講生に一番好評だったのは村井会員が節分の豆を詠んだ歌で、

添削後は次のようになりました。『幸あれと食べる福豆歳の数の見当つけて一握りする』

言葉をギリギリまで削ぎ落とすことが短歌の極意だそうです。前回に続きこの度も好評に終わり、「次年度もぜひ」との声も既に聞こえて



二十三日には三講目茶道で客の作法を勉強いたしました。講師は白取靖子会員です。おじぎの仕方、襖の開け方などをひとりひとり実習した後、実際に席入をしてみました。さすがに全員神職だけあり、最初からタイミングもぴったり合



『新春研修会』

平成十二年度
北海道神道青年協議会

「神社へ今伝えるべきこと」

氏子、地域との

関わりと教化

神社庁の即席茶室ではありませんが、「お先に」「どうぞ」とお菓子とお茶をいたたぎ、本物の茶会に劣ることのない、皆さん立派な客ぶりでした。

本年の『新春研修会』は平成十三年三月五日神社庁に於いて行われました。昨年、会員相互の情報交換の時間をもっと増やして欲しいとの要望があり、参加者を6グループに分けて、グループごとに

度神青協中央研修会（於 富山国際会議場）近藤会長・西川副会長・藤山副会長・上田副会長・山口事務局長・菅原理事・鎌田理事・佐藤理事・永井理事・阿部会員・菅会員・中村会員・田湯（直）会員・田湯（雅）会員・加藤会員・三橋会員・鈴木会員・山口（苞）会員・後藤会員・金山会員・五十嵐会員・佐藤（敬）会員・大野会員・鳥谷内会員・主管 北陸神道青年会 担当 富山県神道青年会 主題『日本の進む道』～東アジア諸国の歴史と現状 歴史の彼方に見える光と影～講師 現代コリア編集長 西岡 力氏、朝鮮半島の政治的情勢について 評論家 中国研究家 黄 文雄氏、台湾 中国の政治的情勢について 評論家 元内閣安全保障室長 佐々淳行氏、日本の危機管理体制について 三月五日 道神青協新春研修会（於 北海道神社庁）五十三名参加テーマ「神社へ今つたえるべきこと」氏子、地域との関わりと教化

三月六日 道神青協第十四回役員会（於 北海道神社庁）近藤会長・藤山副会長・上田副会長・山口事務局長・牧口事務局長次長・松谷理事・星野理事・菅原理事・鎌田理事・佐藤理事・鎌田理事・加持理事・西川理事・永井理事・岩崎理事・星野理事

三月九日 神青協次期役員予定者会議（於 院友会館）近藤会長・藤山副会長・山口事務局長・永井理事

三月二十七日 道神青協監事会（於 手稲神社）近藤会長・山口事務局長・牧口事務局長次長・板垣監事・星野監事

三月二十九日 神青協第二十二回役員会・次期役員予定者会議（於 神社本庁）近藤会長・藤山副会長・山口事務局長・永井理事（道神青通信の発行について）

平成十二年八月三十一日 第十八号発行（担当 事務局）

平成十二年十二月二十三日 第十九号発行（担当 菅原理事）

平成十三年四月六日 第二十号発行（担当 佐藤理事）

問題提起してもらい、充分時間を取り意見交換してもらいました。さらに全体発表と全体討議の時間を設け、グループ間の情報交換を謀り、豊富な情報を取得出来るように企画いたしました。

(順不同)

グループ1メンバー

星野昭雄、牧口 繁、角田秀昭
谷口 了、植田淳一、江崎 巖
佐久間則勝

グループ2メンバー

菅原秀男、西川純夫、阿部高久
田湯雅之、山口貴生、小野清昭
丸井直人、加持敏幸

グループ3メンバー

松谷 俊、岩崎寿宣、中村文彦
野尻岳男、加藤 剛、藤山敬廣
會田史男、曾根康文

グループ4メンバー

佐藤和史、鎌田友樹、中島 徹
上田祐之、小坂欽司、井上篤志
大野清徳

グループ5メンバー

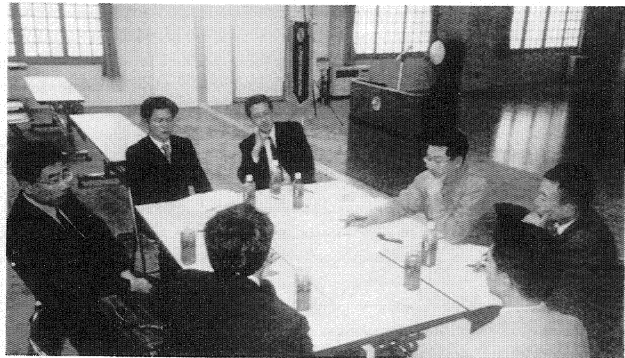
永井承邦、菱田裕一、三橋厚友
花田和彦、酒井栄幸
鎌田恵理子

グループ6メンバー

岩崎寿澄、佐藤勇徳、田湯直宜
鈴木泰尚、金沢久幸、金山隼人
西川充彦、鎌田孝幸

グループ1報告

住吉神社 欄 宜 星 野 昭 雄



第一部会として様々な意見が出された。要約すると、祭事面としてどんど焼き、神振行事、神葬祭に関する事。地域との関わりに関しては、青少年育成、祭典寄付に関する事等が討議事項として問題提起された。

どんど焼きに関しては、ます斎行日は小正月なのか。それとも松の内が開ける七日なのか。

また御札御守または注連縄以外

等神社に関係ないものが持ち込まれた時の対応、また実施神社の実例などが討議された。特に会員が興味を示したのは、注連飾りに付いている鯛や福神などの飾り物は、ダイオキシンの発生しない素材に転換しているのに、見た目でプラスチックと判断してしまう為、製作者が神社に意見書を提出した事や、授与品がすべて環境に対応した素材に転換し、社会や企業も環境に対応しダイオキシンが発生するものが無くなりつつある中、どんど焼きで分別や神職が種分けした作業を止めた時、参拝者が違った意味で神社側の姿勢を問うのではないかとの意見が出された。

次に神振行事に関しては、若者が神社に足を運ぶ方法はないかとの切り口から、様々な角度から意見が出された。先ず鎮守の森コンサートの件が話され、企画段階では、神社と現代風音楽は相反するものと思っていたが、実際開催してみると以外と良い雰囲気醸し出され、思った以上に若い方が真剣にお参りしているなど、良い結果が得られたとの意見が出され、我々自身が、地域や社会に境内を解放していることをアピールする必要性を強く思った。

次に神葬祭に関しては、神職の

平成十二年度

道神青 協賛金御礼

【札幌】北海道神宮・三吉神社・

豊平神社・諏訪神社・弥

彦神社・札幌護国神社・

篠路神社・琴似神社・新

琴似神社・手稲神社・相

馬神社・厚別神社・白石

神社・江別神社・石狩八

幡神社・当別神社・豊栄

神社・千歳神社・札幌祖

霊神社・広島神社・西岡

八幡宮・錦山天満宮

【渡島】函館八幡宮・函館護国神

社・亀田八幡宮・銭亀八

幡神社・三嶋神社・意富

比神社・上磯八幡宮・厳

島神社・山上市神社・福

島大神宮・砂原稲荷神社・

八雲神社・雷公神社・稲

荷神社・尻岸内八幡神社・

落部八幡宮・海津見神社・

矢不來天満宮・一本栗地

主神社・長万部飯生神社・

江良八幡神社・鍛冶華八

幡神社

【松山】檜山神道青年会

【後志】住吉神社・余市神社・岩

内神社・倶知安神社・京

極八幡神社・高島稲荷神

社・塩谷神社・喜茂別神

社・仁木神社・小樽稲荷

神社・小沢神社・琴平神

社・目名八幡神社・寿都

神社・龍宮神社・潮見ヶ

岡神社・水天宮・美国神

喪中について、忌と喪について等
が切り口として討議され、なぜ五
十日が忌明けで、それまで忍び手
で奉仕するか。また靈魂観につい
ては、四つの靈魂観は現代的神道
思想ではないかとの意見が出され、

神葬祭自体が各地方で文化でもあ
り、奉仕する我々の立場が、司祭
よりも遺族の代執者である等、もつ
と深く議論が出来る場の提供が必
要ではないかとの意見で纏まった。

青少年育成に関する件では、現
在進めている教科書問題の意見が
出され、道徳とは、また他国の干
渉に屈することはないとの話しの
最中に制限時間を向え、この部会
を締めた次第である。

今回の討議の場を通じ、北海道
という生立ちを深く思う次第であ
る。北海道日本海側は、江戸中期
から近江商人を中心とする北前船
の影響で交易が栄えた街が多い。

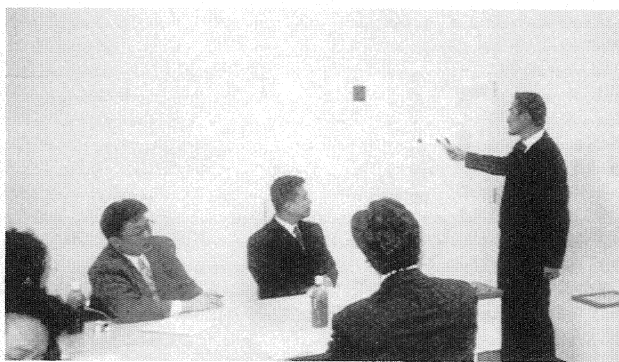
また内陸部においては明治近代政
策における蝦夷地開拓にする入植
者が開いた街が多い。生立ちが違
う環境の中で、青年神職として想
う疑問などを解決し、一つの方向
性を持たせることはまず不可能に
近いものと思う。色々な意見をぶ
つけ合い、また情報を共有し、一
青年神職として混迷する時代に負
けない気概の構築の必要性を強く

思う。

今後このような場があると思う
が、一人でも多くの会員の参加を
切に願うものである。

グループ2報告

長沼神社 欄 宜 菅 原 秀 男
厳島神社 権 欄 宣 西 川 純 夫



グループ2では、八人のメンバ
ーにより、それぞれの地域または
立場からの、疑問を提出してもら
った結果、大きく「地域」「組織」

「祭祀」「運営」「その他」の五
つに分けられ、その中の地域、組
織、祭祀、運営の四つについてお
互いの意見交換、または情報交換
が行われた。

「地域」

一、新興住宅等の氏子加入等多
くの関心を神社に持たせた
い
一、若年層の信仰離れ、伝統を
守りつつ神社に足を運ばせ
るには？

一、他地域からの移転者に向け
ての教化活動

新興住宅地の問題は、新興住宅
地(ベッドタウン)だからと云っ
て全てが信仰心がないわけではな
い。然しながらその割合は極めて
少ない。その対策としては、後
の二つの疑問にも共通するが、神
社に興味を湧くような企画、特に
子供を寄せるようなイベントなど
を開催してはどうかと云う意見が
出た。

「組織」

一、信徒会などの発足の方法並
びに運営とその行事

一、神興会との関係

一、信徒会の発足と運営行事につ
いては、周年行事や社殿改修事業な

社・天満宮・豊足神社・
泊稻荷神社・狩太神社・
留寿都神社・大鳥神社・
真狩神社

【空知】

岩見沢神社・沼田神社・
南幌神社・長沼神社・滝
川神社・大國神社・夕張
神社・芦別神社・芽生神
社・深川神社・赤平神社・
新十津川神社・樺戸神社・
雨竜神社・栗沢神社・市
来知神社・峰延神社・砂
川神社・奈井江神社・江
別乙神社・由仁神社・出
雲神社・秩父神社・栗山
天満宮・空知沿岸交通神
社

【上川】

上川神社・旭川神社・富
良野神社・北海道護国神
社・比布神社・鷹栖神社・
神居神社・山部神社・美
深神社・和寒神社・土別
神社・雨粉神社・神楽神
社・中川神社・当麻神社・
東神楽神社・名寄神社・
美瑛神社・中富良野神社・
永山神社・剣淵神社・東
川神社・上富良野神社・
下川神社

【留萌】

留萌青年神職会

【宗谷】

北門神社・浜頓別神社・
厳島神社・八幡神社・歌
登八幡神社・厳島神社・
利尻山神社・礼文神社

【網走】

網走神社・北見神社・女
満別神社・美幌神社・津
別神社・斜里神社・清里

どの神社としての大きな事業に併せて発足させるのが容易であるとの意見。その運営、行事については会費を頂き、その範囲内で行うなど。旅行、清掃奉仕など神社との関係を密にするように努めるなどの方法が挙げられた。

神輿会との関係については、助成金の有無とその金額の程度について意見交換され、担ぎ手への記念品、直会費程度の助成をしていると云う神社もあり、また担ぎ手の減少により、他市町村からの応援を受けるための遠征費用にかかる助成を支出している神社もあった。

「祭祀」

一、正月後の古神札の扱いと対応

一、歳神様をいつまでお祀りするの

正月後の古神札の扱い方と対応についてはダイオキシンの問題により、各社頭を悩ませてはいるが、奉製業者側の対応も進んでおり、ある程度解消されつつあるのではない。焼却不能の物については、お持ち帰りいただく。その際に神社から清めの塩等を授与している神社もあった。

歳神様をお祀りする期間について

ては、七日迄、十日迄、十四日迄、一年中など、それぞれの地域性又は神職の考え方の特色が出て、一年中お祀りする神社は当然、年中授与すると云うことであった。

「運営」

一、兼務神社の御神札頒布金の取り扱い方

一、社殿改修工事に関わる奉賛金について

一、御例祭における町内、祭典区の寄附の募財方法

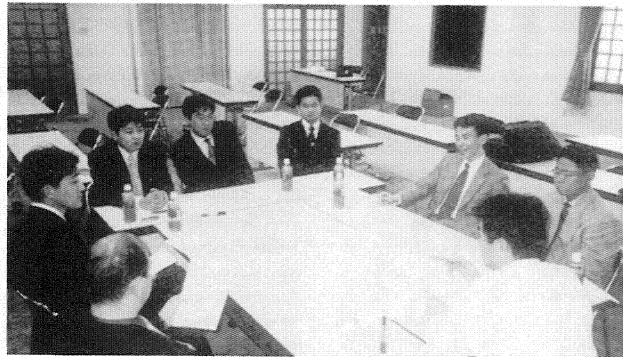
兼務神社の御神札頒布金は、それぞれ神社の事情もあり、本務社で処理している神社もあれば、その兼務社で処理する神社もあった。何れにしろ、臨機に対応してはどうかと云う意見。

奉賛金を含む寄附の問題は、氏子総代などの世話役、奉仕者が減少し、維持費、祭典費などは町内会からの打ち切り寄附など予算減少の傾向にあり、更には例祭の奉仕者などの人員確保のために謝礼を支払い、人集めをするという悪循環になってきていった切実な問題が上った。

以上で時間切れとなり、グループ2の情報交換の場は終了した。

グループ3報告

諏訪神社 権欄宜 松 谷 俊



グループ3は、参加者八名で討論が進められた。

始めに各自が普段思うことを書き出してもらった。以下のような結果になった。

祭祀関係十一件、教化関係十一件、地域関係五件、その他一件で有りました。

予想通り祭祀と教化が共に多くを占めました。

時間が沢山有る様に思われたが、

神社・小清水神社・端野神社・訓子府神社・置戸神社・留辺蘂神社・常呂神社・上常呂神社・相内神社

【紋別】 厳島神社・湧別神社
【胆振】 室蘭八幡宮・中嶋神社・本輪西八幡神社・樽前山神社・恵比須神社・伊達神社・大白山神社・壮瞥神社・稲荷神社・豊浦神社・刈田神社・白老八幡神社・追分八幡神社・早来神社・厚真神社・鶴川神社

【日高】 義経神社・大神宮社・氷川神社・静内神社・三石神社・浦河神社・様似住吉神社・住吉神社

【十勝】 帯廣神社・川西神社・芽室神社・清水神社・御影神社・新得神社・鹿追神社・士幌神社・上士幌神社・音更神社・金刀比羅神社・札内神社・池田神社・陸別神社・本別神社・足寄神社・浦幌神社・十勝神社・大樹神社・茂岩神社・幕別神社

【釧路】 厳島神社・三吉神社・鳥取神社・厚岸神社・昆布森神社・霧多布神社・川上神社・弟子屈神社・阿寒神社・厳島神社・音別神社・厚岸真竜神社

【根室】 根室神道青年会

実際には時間不足で、全部を話すことが出来なかった。以下、特に話題になったものを記す。

①神棚の扉は開けておくのか、閉めておくのか？

各社各人、その時々において種々の対応をしている様であるが、中でも参考になった意見は、昔は棚板の上に神札をのせただけの、いわゆる恵方棚であった。その事を考えると、毎日の生活の中で、お詣りをする時には、神札が直に見える方が自然であり、神棚の扉は開けておくのが、本来の姿ではないだろうか。

②外祭で、特に地鎮祭では、神籬は本当に必要なのか？

これについては、故星野文彦先生の、建築祭祀の本儀を参考とし、今一度研修の必要ありと意見が出た。しかし現在は神籬祭祀が主流となっており、本儀とは別の意味で、今のままでかまわないのではと思う。他、四方祓の作法等で、種々の意見が出された。また、星野先生の本については、道神青としても、会員に入手出来るようにするとの事です。

その他、人形供養の方法等については、実施している神社に聞くのが良いとされながら、ある神社では、希望者に、ゴミとして処分

してもらう為に、清め用の塩を差し上げ、大変喜ばれているとの事でありました。

その他種々ありましたが、紙面の都合上省略する事として、グループ3としては全体討議で、次の事を提出しました。

一、祓の大麻に付ける紙垂の数は決まり等があるのかどうか？
二、大祓に使用する祓津物の長さ、決まった長さ等があるのかどうか？

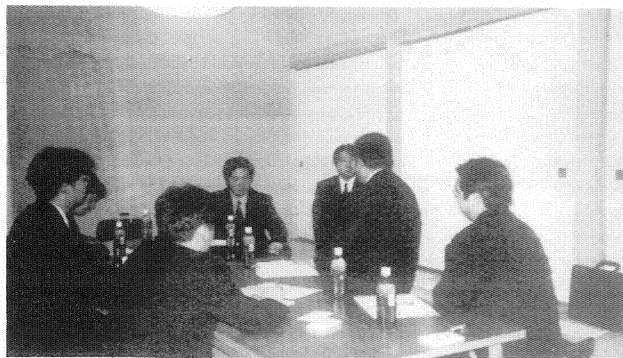
一については、これと言って決定打はなかったが、中でも、我が国は基本的に偶数だと、つまり奇数は外来の思想なので、大麻の紙垂は偶数にすべきであるという意見。

二は、これも結論が出ずに終わったのですが、各社それぞれのサイズがあるらしいことは、確かな様です。

お読みになられた方の中で、解答をお持ちの方は、道神青事務局まで、ご一報戴ければ、幸いに存じます。

今回の様な研修会は、二回目でありますが、以後も、度々行われることを希望します。

グループ4報告 羽幌神社 禰宜 佐藤 和史



グループ4は七名により、論議意見交換が行われました。提出された問題定義を信仰的側面、組織的側面に分けて表記し、その後番号順に述べられた意見を明記したい。信仰的側面

①喪中の際の神札、注連縄の飾り方について。

②神棚の祀り方について。

③清め塩の問題を氏子から問われた事が有るか。

④氏子に神社や神道について話す機会が有るか。
⑤外祭等で個人と団体は玉串料は別か。

⑥解体などの外祭の場合、神饌はどうしているのか。

⑦一人奉仕の神籬祭祀は警蹕をどうしているのか。

⑧他の宗教で葬儀をした場合、死後の世界で会えないのか。

組織的側面

①神社役員の高齢化対策
②人口減少地域の神社維持運営について。

信仰的側面①について

○服忌令は現代では、氏子に理解され難い。

○五十日過ぎれば、御札は受けてもらう。

○縁起物は一年間遠慮する。これらの意見に対し

○地域ごとの習慣が有るので、一様では無い。

○縁起物は節分過ぎれば、飾ってもよいと指導している。

信仰的側面②について

○神棚の飾り方は、地域によって多様なので、一概に言えない。

○また、それぞれの家庭に於いても習慣が違う。

○漁師町の自分の地域では、縁起物の注連縄が、一年中はられ

ている家が多い。また、年神様も、一年中はられている家が多い。信仰的側面③について

○日本では塩は海から、共同作業によって作られ、その中心に神事が有った。従って海の霊力が凝縮されたものと考えるのは自然。穢れを気の枯れと、説明している。仏教の不浄観とは根本的に違うと考えている。

信仰的側面④について

○神社祭りの後社頭講話、葬儀の霊前講話など。

○JCなどの地域団体に所属し、神社や例祭の話をする機会を増やす様心がけている。

○行事や神道の情報を書いた神社便りを神札と一緒に配布している。

○簡単なパンフレットを作ってもよいのではないか。

○直接話す機会は少ないので、どうしても印刷物に、依存してしまふ。

○積極的に知りたがる氏子には、もっと窓口を広げるべき。

信仰的側面⑤について

○基本的には志であるが、聞かれれば一般的な金額を話す。

※この問いに附随して。

☆周辺神社と玉串料の統一基準を決めるべきか。

○玉串料のあり方は、神社の運営

と信仰にも関わることで、個々の自主性が尊重されるべき。この意見に対し

○地域の事情や周辺神社への影響力によっては、神社間の連携も必要ではないか。

信仰的側面⑥について

○基本的建築祭祀以外は、米、酒、塩、水の最小限にしている。負担を少なくすることで、多くの人に神事を体験して欲しい。

○建築祭祀は地鎮祭を基本にしておおむね同じ。

信仰的側面⑦について

○一人奉仕の警蹕は本儀では無いが、神々しさを氏子に感じてもらう為に必要。

信仰的側面⑧について

○神職は霊能者ではないので、あの世のことを観てきたようには言えないが、魂の存在を信じて奉仕している以上、何らかの言葉を持つべき。

○遺族にたいし魂やあの世を語る

ことよって、家族を亡くした悲しみを和らげる事が出来る。

○あの世は祖先崇拜を基本とした類は友を呼ぶ世界、精神の似たものが自然と集まると説明。

○個々の神職の研鑽よって信念を構築するしかないが、諸先輩の体験談も重要。

組織的側面①について

○兼務社などは特に、若い世代の関心が薄い。

○若い世代に役員を委嘱しても、仕事に忙しいとの理由で、名前だけになってしまふ。

○あの世が近くなると、神仏に関心を持たない。

○高齢化社会に向けて、高齢者の能力発揮の場と割り切る。

組織的側面②について

○町村合併による氏子区域への影響。行政区域は別のものだが、理解できない氏子もいる。

○安定した運営資金を確保するためには、維持費、寄付金に頼っているのが現状。

○社入を増やすには、維持費や御札等の増額が、一番有効なのだが、反発が多い。

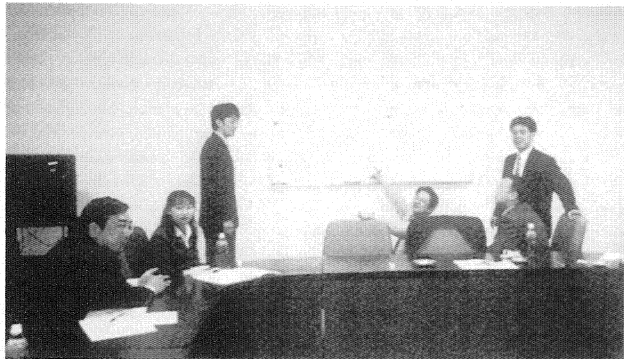
○氏子の理解がなければ、神社の維持運営は出来ない。伝統の大切を教化して行くしかない。

内容的には、記載しきれない程、詳細な意見交換が成されました。多様な情報交換が出来たことは、会員それぞれにとって、大きな収穫でありました。

最後にグループ4の論議内容を詳細に記録してくれた、鎌田友樹会員に感謝申し上げます。

グループ5報告

羽幌神社 権掲宣 永 井 承 邦



司会進行 永井承邦

書記発表者 菱田裕一

用紙記入者 三橋厚友

始めに、今回の討論会の手法を説明し各参加者に、日頃疑問に感じること等を付箋に記入して戴き、討論会を開催した。個々より出された題材を以下のテーマに分類

一、女子装束

二、神棚

三お焚きあげ

四、神社運営

五、地域との関わり

六、祭典余興

各テーマごとに問題の詳細を明らかにし解決方法を探るべく討論を開始。

一、「女子装束」について

(問題の詳細) — 女子神職の正装は沢山重ね着していて動きづらい、そのため帖紙に檜扇を入れない人が多い。釵子に付いている飾り紐も邪魔で祭式を行うのに機能的じゃない改良できないか？

(回答のまとめ) — 女子神職会などで研究調査を実施し、神社本庁等の機関に働きかけ改善を求める。

二、「神棚」について

(問題の詳細一) — 正月の飾り等を下げるのはいつか？氏子からの問い合わせへの返答は「七日、十一日、十五日」などの内れこでも良いと言うアバウトなもので良いのだろうか？

(回答のまとめ) — 松の内と

言うことで七日を基本ラインとし、地域性があるので各地域の氏神社に相談して個々の選択によるものとする。

(問題の詳細二) — 御札が入らない神棚がある、特にホームセンターなどで扱っている神棚に多い。

(回答のまとめ) — 御札を傷つけない方が良いので無理に曲げて収めるようなことはせず、前に立てかけるように指導する。そのような神棚の造りにならないよう神社本庁等の機関から取り扱い店にはたらきかける。

(問題の詳細三) — 神棚の取り付け位置についてどのような指導をしているか？

(回答のまとめ) — 南か東の間であれば良い、但し常々手入れのできる場所で、仏壇だけでなく必ず神棚にも供え物をしてもらう。

三、「お焚き上げ」について

(問題の詳細一) — 燃やせる物、燃やせない物を分類するのに大変手間がかかるのだが？

(回答のまとめ) — 氏子にお焚き上げすべき物、すべきでない物の周知をしてもらう。

(問題の詳細二) — 人形について取り扱いをどのようにするべきか？

(回答のまとめ) — 地域によって格差はあるが将来的に行う必要がある、その為には明確なルールを設けなければならないだろう。

四、「神社運営」について

(問題の詳細) — 社入金を増やす為の手法、氏子との関係教化ということで外祭、氏子の減少している中でこの問題をどうするか？又、祭典寄付の集まりが悪くなってきたのをどうしたらよいのか？

(回答のまとめ) — 新しい祭典や行事を積極的に企画し実行して行くべし。

氏子や企業からの寄付を受け付けるにあたり、寄付した方々が参加できるような祭典や行事を進める。

各家庭に赴き宅神祭りを行う。

参加型の祭典や行事、積極的な

宅神祭を行うことにより地域との関わりも密になり関係が深まる。

◎ここで討論時間終了、全体への問題提起として、「古くて新しい祭典の創造と企画」をテーマとしてどのような発想があるか全体での意見を求めることにする。

《全体の感想》

全体を通し、活発な意見交換がなされ参加者が個々に抱えている様々な問題の解決の一助となる討論会が出来た。

意見・情報の交換の場としては、誠に良い企画だと思うが、一歩間違えると只の雑談になる可能性もある。

提起した問題が、皆で考えるべき事なのか？個人の調査分析で解決できるものなのか？進行役の判断や討論の進め方が重要であろう。

このような、討論会を幾度となく実践し各会員が進行役を務めることで資質の向上につながるものと考えてる。

多くの会員が参加し、有意義な意見・情報の交換の場が、より多く企画されることを今後も期待します。

グループ6報告

池田神社宮司 岩崎 寿澄



グループ6は、参加者八名から、三十件の意見を頂きました。大別しました中で、①祭儀関係 ②神社教養関係 ③教化関係 ④神札関係 ⑤その他となり、第一項の祭義関係では、女性三十七才厄年に、前厄後厄がないのはなぜなのか、と言う話から盛り上がり、本来厄前後と言うものがなく、厄年そのものの成り立ちを知る、良い機会と考えたのが、一同の収穫となり、その後、玉串料

を明示する是非等、白熱した議論の口火となったのです。

第二項の神社教養関係では、神葬祭について、又喪中の際の期間等、いずれも論じ尽くせない内容であり、この後の第三項教化関係、第四項の神社関係とも関わり特に神札頒布の際の教化には、夫々苦心している様子が報告され、喪中と喪中欠札を混同している現在、如何に教化して行くかは、大切な課題として提起されました。

第五項その他として、神社組織について、又地域との関わりについて色々話した。特に、祭典費を集める場合の苦勞等は、今後の神社の護持運営上最も関心ある部分となり、それぞれの神社の実情を報告するに留まったが、現状の意見交換は大変役に立った様であった。さて、当グループでこれから種々の問題を話し合う内に、テーマ毎の関連性が見えてきた。それは神社護持運営の為に、夫々の立場で教養を深め、関わる氏子崇敬者に如何に伝えて行くか、その向くべき所には、大神様の神徳の発露と共に、氏子のより多くの伝達ではないかと気付いたのである。神職の資質の向上こそが、地域の氏子との連係を深め、祭儀、教化の実践に関わる教養を積み重ねるのである。

全体討議
富良野神社 禰宜 西川 充彦

それは我々の先輩神職が、あまりにも当り前に行ってきたことであり、見過ごしてはいけないもの、今後の我々の規範とすべき姿が、そこにある事を自覚する事が肝要であるとの結論に達した。

最後に、これらを踏まえて、神職としての資質を求める先は、「マニユアル無き神道人としての見識」を夫々の神職先輩に求める。として今後の健闘を祈り、閉会した。

六分科会による発表終了後、各会より上がったテーマに沿って全体での意見交換を実施した。

*大麻の紙垂の枚数、及び大祓の祓津物の長さに関しは、あるか枚数について奇数を良しとする考えは大陸の影響であり、日本に於いては偶数を良しとする傾向がある。祓津物の長さについては不明である。

*どんど焼について

ダイオキシン問題ばかりが取り沙汰されるが、神社に於いては神符守札等を主に扱うのが本儀であり、その他縁起物・注連飾り等は地域に於いて炊き上げるべきであるが、便宜上神社が場所を提供し奉仕している。この問題については神社の「古神符守札等焼納式」と地域の「どんど焼」を明確に分けて執行することも一つの方法ではないか。

*神社役員の高齢化対策について
この問題は各社共通の問題ではあるが、一般的に信仰心の芽生える年齢を考えればやむを得ない事でもある。御典会等青年の会から役員を輩出する例もあるのかどうか。

* 地域の奉賛組織の設立方法

前期の御興会については直ぐに役員というわけにはいかないが、事ある毎に教化育成して将来の人材を育てる事が肝要。

奉賛会については北海道神宮に於いて復興奉賛組織がそのまま現在まで残っているが、信仰心に根付いた組織とまではいかず今後の課題である。

又、神社費の取りまとめについて昨今厳しい状況が続いている中、町内会で協力頂ける方で奉賛会を組織している場合もある。

* 古くて新しい祭典の創造・企画
地域性を生かした現世利益を謳った神社を新設し社入が大幅に増加した例もある。北海道は殆どの地域が歴史が浅く伝統に根差したというより、現在の地域状況を勘案して新たな展開をはかることも青年神職として取り組んでいかねばならない。

* 神職の中執持ちとしての資質の向上

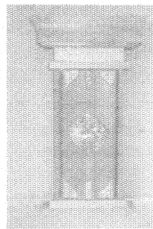
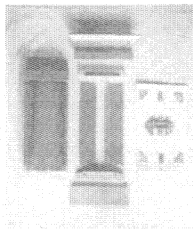
祭儀を含め、其の執行内容の差異は地域性と共に神職個々人の神道観に依るところが大きい。規範の定かでない部分の多い我々の奉仕の中で、夫々が模範とすべき先

達がいるはずで、取捨選択しながら自分の奉仕の糧とし、研鑽に励む事が重要である。その中で今後も我々は情報交換等、横の連携も充実させながら神明奉仕に励みたい。

以上、最後のテーマはまとめ的な内容となったが、情報を共有するという面では北海道は恵まれた環境にあり、今後も形はどうであれ、我々が忌憚らない話し合いが出来る場を持つていきたい。

◆子供向け組立式神棚

神宮大麻・神棚奉斎教化に活用しましょう！



完成品（総巾190mm奥行55mm高さ305mm）

- ◆青森ヒバで謹製。
- ◆誰にでも簡単に組み立てられ、安価。
- ◆柱又壁等に立て掛けることが可能。
- ◆青少年対象の神社体験教室等にも活用可能。

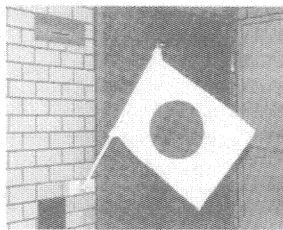
1宇 頒価 **1,400円**

（消費税・箱代包装料込み送料着払い）

◆国旗セット

〔平成11年8月13日に国旗及び国歌に関する法律第1条で「国旗は日章旗とする」と決まりました。〕

国旗「日の丸」を掲げましょう!!



小型マンション・アパート等にも最適!!

- ◆国旗…旗、縦260mm×横340mm 旗竿…全長540mm
- ◆集合住宅の玄関先にも掲げられるコンパクトサイズ
- ◆装着方法は、両面テープ式 吸盤式の2種類
- ◆国旗に関する説明書付き
- ◆1組づつ箱に入れて頒布

1組 頒価 **850円**

（消費税・箱代包装料込み 送料着払い）

編集後記

年度末の雑多な時期制作時間も短く、原稿依頼も短時間でお願したにも関わらず、期限内に原稿を納めていただきました。

特に新春研修の原稿は、期限一週間と大変な、お願いをしてしまいました。御迷惑をおかけしたと思います。

今回、沢山の方々に原稿を電子メールで送付して頂きました。私は電子メールを私的な事にしか、使用した事がなかったもので、編集作業がこれ程簡単に成るとは、今まで知りませんでした。

今後通信を担当される方には、電子メールをフル活用されることをお勧めします。

（編集には一太郎が便利です。）
終わりに、ご協力頂きました皆様に、心から感謝申し上げます。
（佐藤）

題字「道神青」について

本通信は、平成四年二月一日創刊にあたり、当時の中野尹亮北海道神社庁々長に揮毫頂いたものです。